

令和7年3月13日

令和6年度学校経営報告書

八王子市立中山小学校

校長 鈴木 淳

1 令和6年度の重点目標

- (1) 中山中学校グループにおける小中一貫教育の推進
- (2) 楽しく学ぶ子ども ～確かな学力の育成～
- (3) 楽しく遊ぶ子ども ～安心して過ごせる学校生活～
- (4) 楽しく鍛える子ども ～日常の体育的活動や食育の創意工夫～
- (5) 地域社会と深く関わる教育活動の推進

2 重点目標と具体的な方策、検証方法・評価

	今年度の取組目標	取組目標の達成に向けた方策	成果の検証
中山中学校グループにおける小中一貫教育の推進	○義務教育9年間を見通した小中一貫教育の取組を推進する。	・中学校への円滑な接続を図るため、小学生の部活動見学（夏季休業日）や中学校授業体験・部活動体験（2月）を実施する。 ・あいさつ運動（学期に1回）を実施する。  ・児童会・生徒会の合同会議（1学期）を通して、中山中学校グループ（中山中・中山小・高嶺小）に係る諸問題の解決に向けて児童会・生徒会の交流を図る。	●小学生の部活動見学（夏季休業日）や中学校授業体験・部活動体験（2月）を計画通り、実施することができた。 ●中山中学校と合同のあいさつ運動は、小学生が中学校の校門に立ち、中学生が小学校の校門に立寄りなど、4月、9月、1月に実施することができた。 ●「はちおうじっ子サミット」に向けての話し合いを行い、児童会・生徒会の交流を行った。
	○学力向上の取組を推進する。	・小中一貫「学力向上プロジェクトチーム」が中心になり、授業改善をすすめる。年3回の授業研究を通して授業改善を図り、共通の課題である思考力・判断力・表現力等の育成を図る。	●小中一貫「学力向上プロジェクトチーム」が中心になり、授業改善に向けての話し合いを進めた。年3回、それぞれの学校の授業を参観し、共通の課題である思考力・判断力・表現力等の育成に向けて検討した。

楽しく学ぶ子ども 確かな学力の育成	<p>○個に応じた指導を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるようにする。</p>	<p>・八王子市学力定着度調査の結果を基に、「学力定着・向上に向けた取組計画」を策定・実施し授業改善を推進する。</p> <p>・基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況を把握し、指導に生かす。</p> <p>・全学年算数の少人数指導、習熟度別指導を充実させる。</p> <p>・朝の時間や家庭学習でも東京ベーシック・ドリルや八王子ベーシック・ドリル、ドリル型学習コンテンツを活用し、習得目標問題を確実に解くことができるようにする。</p>	<p>●八王子市学力定着度調査の結果を基に、「学力定着・向上に向けた取組計画」を策定・実施し授業改善を推進した。</p> <p>●基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況を把握し、指導に生かすことができた。</p> <p>●1・2年は少人数指導、3年以上は習熟度別指導を実施。校内研究を進めながら指導を充実させることができた。</p> <p>●朝の時間や家庭学習でも東京ベーシック・ドリルや八王子ベーシック・ドリル、ドリル型学習コンテンツを活用し、習得目標問題を確実に解くことができるように努めた。</p>
	<p>○主体的・対話的で深い学びの実践を通して、思考力、判断力、表現力等を育む。</p>	<p>・校内研究の充実を図る。研究教科を算数にし、年間7回の研究全体会を実施する。そのうち3回を研究授業とする。</p> <p>・以下の3つの実践を、年間を通して行うようにする。</p> <p>「児童主体でめあての設定」、「1時間の流れの基本モデル」①問題把握→②自力解決・スパイタイム・ヒントタイム→③集団検討→④まとめ→⑤適用問題→⑥振り返り</p> <p>「単元末の振り返りの工夫（3年生以上）」</p> <p>・学級担任は年2回の授業観察うち、1回を算数の授業とする。他の教員の授業を参観する機会を設定する。また、授業実践を記録に残し、蓄積する。</p>	<p>●校内研究は予定通りの日程で実施することができた。3回の研究授業を実施することができた。</p> <p>●児童の実態に応じて、「児童主体でめあての設定」、「1時間の流れの基本モデル」、「単元末の振り返りの工夫（3年生以上）」を実施し、思考力、判断力、表現力等を育む授業を、年間を通して行った。</p> <p>●学級担任は年2回の授業観察うち、1回を算数の授業とした。他の教員の授業を参観する教員が増えた。授業実践を記録に残し、蓄積した。</p>

	<p>○子どもが主体的に学習に取り組む態度を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れる。</li> <li>・学習したことを日常生活に生かせるように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習の中で、見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れることで、次への学習意欲につながった。</li> <li>●学習したことを日常生活に生かすことを意識させるように指導方法を工夫した。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">楽しく遊ぶ子ども く安心して過ごせる学校生活く</p>	<p>○異学年を含む学校生活全体の中で豊かな人間関係を築き、安心して過ごせる学校生活を保障する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して隣接学年活動やたてわり活動等の異学年を含む学校全体の活動を行う。</li> <li>【主なたてわり活動】</li> <li>・全校遠足（5月）</li> <li>・運動会のたてわり種目（10月）</li> <li>・月1回のたてわり遊び</li> <li>・さつまいもの栽培から収穫・焼きいもまつり（11月）</li> <li>・日々の清掃活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●年間を通して隣接学年活動やたてわり活動等の異学年を含む学校全体の活動を計画通り行うことができた。異学年との交流を深め、豊かな人間関係を築くことにつながった。</li> </ul>
	<p>○気持ちのよいあいさつができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつに関する目標を学年ごとに設定し、学期ごとに振り返りをする。</li> <li>・学期ごとに各学年の「あいさつ名人」を表彰する。</li> <li>・青少年対策中山地区委員会と中山中学校との連携視し、「あいさつ運動」を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「あいさつをしよう」を年間重点生活目標に設定し、目標を学年ごとに設定し、指導を継続したが、まだできるようになってはいない。来年度も引き続き、年間重点目標として設定する。</li> <li>●「あいさつ名人」の表彰は、あいさつへの意欲につながった。</li> <li>●青少年対策中山地区委員会と中山中学校との連携を重視しながら、「あいさつ運動」を実施した。その時期に合わせ、中山中学校の正門付近に児童会の児童が立ち、あいさつ運動を展開した。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会のあいさつに関する取組を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童会が、あいさつにかかわる内容の集会を行った。</li> </ul>
	○いじめ防止の取組と不登校児童への支援を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ・不登校への適切な対応をするため、週1時間、全教員参加の学校いじめ対策委員会を開催する。また、記録整理、情報共有、関係児童の聞き取り等の時間を確保し、必要に応じて関係諸機関と連携して対応する。</li> <li>・不登校児童への対応及び不登校対策として、個票システム、SCやSSW、QU（4年生以上）等アンケート調査を活用する。</li> <li>・コーディネーター的な役割を果たす教員が中心となり、保護者や関係諸機関との連携、別室の活用等の支援策を策定し、安心して学校生活を送れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いじめ・不登校への適切な対応をするため、毎週火曜日に全教員参加の学校いじめ対策委員会を開催した。また、記録整理、情報共有、関係児童の聞き取り等の時間を確保し、必要に応じて関係諸機関と連携して対応した。</li> <li>●不登校児童への対応及び不登校対策として、個票システム、SCやSSW、QU（4年生以上）等アンケート調査を活用した。SCによる分析を児童のいじめにかかわる指導に活かすことができた。</li> <li>●別室をほっとルームとし、エアコンを設置することで年間を通して活用できるようにした。別室の活用等の支援策の策定により、支援の選択肢が増やすことができた。</li> </ul>
楽しく鍛える〜日常の体育的活動や食育の創意工夫〜	○日常の体育的活動での創意工夫で、達成感を味わわせながら体力の向上をさらに推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の体育的活動として、5月に短縄集会、1月にマラソン集会、3月に長縄集会を行う。それぞれの集会に向けて、休み時間等に継続的に練習できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日常の体育的活動として、5月に短縄集会、1月にマラソン集会、3月に長縄集会を計画通り行うことができた。それぞれの集会に向けて、休み時間等に継続的に練習する児童の姿を見ることができた</li> </ul>
	○育て収穫し食すまでの体験学習や各教科等での食育に関する学習、学校給食との関わりの中で、食の大切さを考え判断できる児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2年生は生活科、3年生以上は総合的な学習の時間に、年間を通して野菜を育てる活動を位置付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1・2年生は生活科、3年生以上は総合的な学習の時間に、年間を通して野菜を育てる活動を計画的に実施した。今後も継続していく。</li> </ul>

	を育てる。	・栄養士と連携し、食育の指導を計画的に実施する。	●栄養士と連携し、給食指導を中心に食育の指導を計画的に実施することができた。
地域社会と深く関わる教育活動の推進	○郷土学習を推進するために、八王子や中山の豊かな自然環境・地域の人々の暮らし・伝統・文化などの体系的なカリキュラムを取り入れ、郷土学習を実践する。	<p>・「地域のことを学ぶ日」を設定し、全校児童で地域の自然や文化について学習する。</p> <p>・中山の自然を生かしたビオトープを保護者、地域人材と共に発展させる。ビオトープを活用した教育活動を充実させる。</p> <p>・地域人材を講師とした体験活動として、5年生が陸稲を栽培する。収穫後も、餅つき等の活動を充実させる。</p>	<p>●6月15日(土)に地域のことを学ぶ日を設定し、ゲストティーチャーによる講演(1年～3年、4年～6年)を実施した。ビオトープや里山の保全等のことについて話を聞き、長池公園で体験学習もできた。</p> <p>●桜美林大学と連携し、ビオトープの環境を整備し、学習に活用できるようにした。その後、大学生がビオトープ周辺の植物について調査した。その結果をまとめ、令和7年度に小学生に発表する予定である。</p> <p>●地域人材を講師とした体験活動として、5年生が陸稲の栽培を行った。水稻の栽培も実験的に行い、それらの違いを学習することもできた。収穫後も、餅つきを行い、他学年も体験することができた。</p>